園だより３月

わたしは植え、アポロは水を注いだ。しかし、成長させてくださったのは神です。
コリントの信徒への手紙Ⅲ　３章６節

　朝晩の冷え込みが厳しかった２月でしたが、園庭の白木蓮の蕾はふかふかの苞葉に包まれながらも、日に日にそろそろ花を咲かせようかと膨らみ、備えの時を迎えています。桜の蕾も心なしか柔らかさを感じます。みんな春を待っています。私はこの時節が好きです。凛とした寒さの緊張感の中にも、穏やかな春を感じさせる木々たちの様子。さあ、新しい年度がやってきますよ、子どもたちのかけがえのない成長を豊かに感じていますか？そう問いかけられ、改めて子どもたちの成長を確かに感じる嬉しいときであるからです。
この問いには保護者の皆様もきっと同じ答えをお持ちでは、と思います。１年間の園生活で子どもたちは本当に豊かな成長を遂げています。それぞれの思いで遊ぶ充実感から友だちと同じ思いを共有しながら遊ぶ交わりの充実感へ。ひとりでは無理なこともお友だちと力を合わせる経験から感じる思い以上の達成感。自分の想いで溢れている心にお友だちの想いが注がれたとき、器から水が溢れ出るように流れていた両方の想い。けれども気付くといつの間にか心の器は広く深くなり、注がれる様々な想いを十分に受け止め満たし合っている。より豊かな成長の為に備えられた幼稚園という環境の中で子どもたちは、各々に心を動かしふるわせ合いながら、お互いに思い合い心の成長が成されました。
体の成長も目まぐるしく、新学期のころハサミという道具を使って表現を楽しもうとするも、中々思い描く通りに表現することが難しく「手伝って！」と傍らにいた私に声をかけていた子どもたちも、今では様々な道具を使いこなし思い描いた表現を楽しんでいます。体を支えきれずにいた雲梯遊びも、気付くと腕１本で体を支えながら端から端まで移動し楽しんでいます。どの子たちも、きっと誰よりも本人たちが自分の体の発達を実感し、その成長に喜びを感じていることでしょう。

私たち保育者は子どもたちが神様からいただいた自ら成長する力を十分に発揮することを信じ願い、保育者として想いを注ぎ共に過ごして参りました。今年度最後の３月の日々、小春日和の陽だまりの様な毎日をご一緒に見守っていただけますことお願い申し上げます。

園長　駿河　幸子